

Aim for Excellence

~世界トップレベルのシンクタンクを目指して~

(国問研改革の現状と課題)

平成24年7月19日

Aim for Excellence

1. ハイブリッド型(注)を前提としつつ、世界トップレベルのシンクタンクを目指し、内外での存在感を高める。
また、中国等の影響力の伸長をにらみ、トラック2、トラック1.5の担い手たる日本のリーディング・シンクタンクとして、国益に寄与する。

(注:「ハイブリッド型」については、末尾の頁参照。)

2. 世界トップレベルを目指す「5つのアクション」。
3. 当面の目標:シンクタンク・ランキングにおいて、3年以内に(世界(Non-US)) 20位以内復活、5年以内に10位以内を目指す。
また、10年以内に「US&Non-US」で10位以内を目指す。

(参考:アジアでは毎年2位乃至1位であるが、世界(Non-US)では、2009年まで20位前後。その後2010年に46位に落ち込んだ後、2011年は39位に若干改善。)

国問研改革の実施状況

1. ガバナンス体制の整備 (公益財団法人認定(2012年度)等)
2. 財務体質の強化 (事務所移転、人件費削減、法人会費の増等)
3. 事業及び発信力の強化 (政策提言力の強化、海外有力シンクタンクとのネットワークの拡充等)

一連の取り組みは、一定の成果を挙げており、当研究所はアジアのシンクタンクの中では高い評価を得ている。一方、米国の有力シンクタンク並みの世界トップレベルのシンクタンクを目指すには、一層強力な取り組みを要する(「Aim for Excellence」の必要性)。

「Aim for Excellence」: 5つのアクション

アクション1 プロジェクト成果のインパクト向上

- (1) インパクトのあるプロジェクト選定と実施
(政策当局者、経済界等とのインターフェースを一層強化。)
- (2) 「プロジェクト評価委員会」
(評価→次年度プロジェクトへの反映、をよりシステマティックに実施。)

アクション2 発信力の強化

- (1) マスメディアへのアウトリーチ強化
(英文コメンタリー、「国際問題」、「JIIAフォーラム」、ホームページ等での発信に加え、マスメディアへのアウトリーチを強化。)
- (2) 英語発信の強化
(財源の目途を踏まえつつ、「国際問題」の英語化検討等。)

「Aim for Excellence」：5つのアクション(続)

アクション3 分析・提言力の強化
定期的な分析・提言レポートの発出等。

アクション4 財源の強化
法人会費・寄付に加え、プロジェクト・ベースのファンドレイジングを強化。

アクション5 国問研が持つ強みを活かす
海外有力シンクタンクとのネットワーク、産官学の連携を一層強化。
政策提言等に反映。

日本国際問題研究所の特徴 = 「ハイブリッド型」のシンクタンク

1. シンクタンクとしての独自の観点を踏まえ、政府と緊密に問題意識を共有しつつ、プロジェクトを組織
「研究・提言」、「国内外のネットワーク」、「フォーラム・広報」
を三位一体で実施
2. 国からの資金と共に民間からの資金(法人・個人会員、寄附等)を財源
3. このような特徴を生かして、政策に結びつく提言、「日本の意見」の発信と各国オピニオン・リーダーへの刷り込みを積極的に実施。
(日本の存在感を高める「War of Ideas」の先兵)